

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502

トマ喰い虫社

☎03(498)6095/045(563)5101

FAX. 045(563)9907

郵便振替 東京6-136148トマ喰い虫社

No. 61

90.11.20

定価 100円

ハンス・オンゲルンゲル作「オイクウルの大海蛇からの逃避」
(ペラウの伝説にもとづくスケッチ)より



H.Engelungel

ハンス・オンゲルンゲル作

みんなで止めた海外派兵 米軍・多国籍軍の海外派兵も止めさせよう！

デタント後の自衛隊 ● 前田哲男

第12回全国会議レポート

インディペンデンス母港化反対行動プラン 90年代のトマホーク/反核ホットライン

[発行] トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

2000円

あなたも仲間！（会費は本誌購読料を含みます）

自衛隊海外派兵の火種を消そう!

米軍・多国籍軍の海外派兵

だって許せない



●みんなの力が自衛隊海外派兵を止めた。とりあえず、止めた。初めてデモにいった人、初めて署名に立った人、署名した人、首相に手紙を書いたひと、「家族声明」を家の前にはりだした人、バッチを作った人、防衛庁前でハンストを貫いた吉田満智子さんと井沢幸治さん……。とても書き切れるものではない。本当にたくさんの人が動いた。その動きが共鳴しあって大きなエネルギーとなった。●だが、これは「とりあえず」の勝利だ。海外派兵の火種はシッカリ残された。自公民三党で交わされた「国際平和協力に関する合意覚書き」をとっかかりに、自民党タカ派はチ



10月28日、横須賀平和運動が海上から自衛官に海外派兵反対の呼びかけ。護衛艦のデッキには、自衛官がすすなりになって耳をかたむけてくれた。

ヤンスをうかがっている。チャンスとは、世論が冷めたその時だ。火種を消すには、もっと大きな平和の炎を絶やすことなく、拡げていく他にはないだろう。

●一方ではとんでもない段取りが着々と進められてきた。国連平和協力法の廃案が決定的になった十一月八日、アメリカは中東派遣軍を十五万人以上増強する、と発表した。イラクに対する「攻撃的軍事行動」を可能にするための措置だという。そしてトマホーク艦、空母に加えて、在欧米軍の戦術核兵器を持ち込む、とまで明言した。日本の私たちがホッ

(十二ページへ)

三〇〇発以上のトマホークが中東に!

米海軍協会のデータ・ベースにある十月一日づけの「オーダー・オブ・バトル」(「戦列」)によれば、中東での作戦に参加あるいは待機している米軍艦のうち、トマホーク能力を持った船は次のとおりである。

- ☆戦艦ウイコンシン(三三三発)
 - ★ミサイル巡洋艦バンカーヒル(二六六発)
 - ★ミサイル巡洋艦モービルベイ(二六六発)
 - ☆ミサイル巡洋艦アンティータム(二六六発)
 - ☆ミサイル巡洋艦サンハチント(二六六発)
 - ☆ミサイル巡洋艦フリピンシー(二六六発)
 - ☆原子力ミサイル巡洋艦ミシシッピー(八八発)
 - ☆駆逐艦スプルーアンス(四五五発)
 - ★駆逐艦ヒューイット(四五五発)
 - ☆駆逐艦デイビット・R・レイ(四五五発)
 - ☆駆逐艦ジョン・ロジャース(八八発)
 - ★駆逐艦ファイブ(四五五発)
- ◎原子力潜水艦の実態は不明。通常五隻が西太平洋と地中海に配備されているという。◆

冷戦終結で変わったこと 変わらなかつたこと

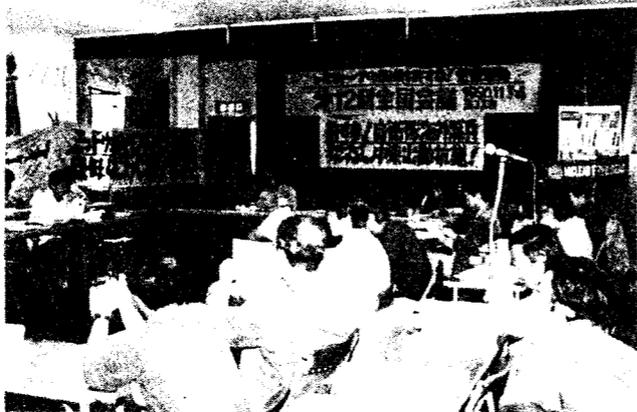
三日は丸一日をかけて「フォーラム・ポスト冷戦時代の反核反基地運動」。午前は海業新さん、前田哲男さん、梅林宏道さんからの問題提起と討論。八十年代、大国主導の軍拡は強力な「敵」を必要としていた。今その「敵」は消え去った。軍拡派は新たな「敵探し」に躍起になっている。米ソいづれもその答えを「低強度紛争(LIC)」(たとえばイラク)に見付けているようだが先行きは依然として不透明だ。アジア太平洋でも軍縮は進んでいる。ただ、ヨーロッパに比べはつきりしたビジョン、プログラムを持たない「自然発生的軍縮」である。日本は「冷戦」の情性に身をゆだねて軍拡をやめようとしな

このような「揺れ動く時代」に、反核反基地・平和運動はどのように分け入っていくのだろうか。「たとえば、自衛隊や米軍基地の半減のような具体的明確な軍縮政策を積極的に提案するべきではないか」との京都の青木さんの提起に一同うなずく。討論は夜のセッションに引き継がれた。(今号と次号に前田さんの問題提起を再録します。海業さん、梅林さんの問題提起と討論も何らかの形で再録しお伝えしたいと思います。編集部)。

インディペンデンスの母港反対 行動計画など決める

反トマ運動 11/2→4
第12回全国会議の報告 横須賀で

軍縮と平和の 新時代を つくろう!



五年前の冬、横浜・金沢文庫の社会教育会館の暖房の無い部屋で、震えながら交流した第一回からかぞえて十二回目、「全国会議」が横須賀に帰ってきた。

十一月二日夜から四日午後にかけて横須賀市教育会館をメイン会場に開かれた今回の会議は、「ポスト冷戦」の日本の反核反基地運動の今後をさぐるると同時に、空母インディペンデンスの母港化を代表とする世界の流れに逆らう軍拡を食い止めるための具体的行動計画を練る、というでっかいテーマをかかげた

ものだった。

「国連平和協力法」の国会論議が大詰めを迎えようとしていた。三日には東京で市民のデモが行われていた。呉の湯浅さんは、ヨイシヨイシヨと大きな段ボールをかかえて姿をみせた。広島で集めた一万人を超える緊急署名を五日に政府に提出するという。京都の人々は「毎日デモ」を抜けてかけつけてきた。昨夜地元での集会の後発つて来たという遠方からの参加者がいた。常連の一人、京都の吉田さんは、防衛庁前でハンスト中だ。

反基地運動の現場から 力あふれる報告

午後の部は全国各地の反基地運動からの現場レポート。このセッションのためはるばる新潟や佐世保から駆け付けてくれた人など、初めてお会いする人も多い。簡潔で力こもった、そして地元ならではのこまやかな報告が続いた。このセッションの模様は大きくてパフレットにして刊行する予定です。ここでは、報告された基地名(地域名)だけを列挙しておきます。報告者のみなさん、どうもありがとうございました。

沖縄／九州(鹿屋、喜界島、えびの)／佐世保／岩国／呉／舞鶴／小松／依佐美・小牧上瀬谷／横田／立川／厚木／相模原、座間／横須賀／新潟／三沢(文書)。

悩みも多いが やっぱり運動は楽しい

夜は、会場を横須賀平和センター(船越教会)に移して、「ワーク・ショップ」反核反基地運動に何ができるか。呉の湯浅さん、横須賀の新倉さん、「市民の意見30の会」の吉川さんからの問題提起を受けて話しあった。「反基地のネットワーク作り」に本腰をいれよう。と湯浅さん。「市民にアンケートをとれ

ば過半数が基地はないほうがいい、と答える。なのに反基地運動は市民の多数が参加する運動になっていないのはなぜか」と新倉さん。「運動に足をつっこむとしんどい、ということもあるのだろうが、基本的なところで運動が社会的な信頼を得ていないということはないだろうか。戦争や事故などの恐怖に訴えるだけでなく、もっと解放的で前向きな(そして気楽に参加できる)運動を作っていないかなければ」。吉川さんは「市民運動は単一の課題(シングル・イシュー)。全体状況を相手にするのは政党の役割だ。という分類にはたして根拠はあるのだろうか」と問題を投げかける。「日本を丸ごとどうするのか、を考

える市民のネットワークを作ろう」。また、「非核三原則には賛成だが安保にも賛成」というような国民の『バランス意識』そのまま受け入れていいのだろうか。より根本的な変革を目指す新しい政治スタイルを生みださなければ」。● ●

討論の途中からはアルコールも入り、話しは大いにはずんだ。問題の幅は広く根も深い。ここでも「具体的な軍縮提案」はテーマの一つになった。これ、という結論がでたわけではないが、みんな脳細胞をハゲシク刺激されたことだけは間違いない。

これが 行動プラン!

翌四日朝、雨の中、浦郷弾薬庫などいくつかの施設を見て回る。「危険!放水禁止」の看板がいかにもぶきみだ。

この日は再び会場を教育会館に移し、具体的な行動プランを話し合った。紙面が尽きてきたので、合意された項目をあげておこう。

- * 三日の反基地フォーラムをパンフレット化する
 - * インディペンデンス母港化阻止の全国署名の展開(労組などで行く横須賀の「現地闘争本部」の署名との合流を追求する)
 - * 空母母港で直接被害を受ける住民の共同アピール
 - * 横須賀基地包囲行動の企画立案
 - * 国際的研究者のコメントを含むイ号母港反対リーフレットの作成
 - * 海の軍備撤廃を!国際共同行動を来年五月横須賀などで開催する(フイリピン、韓国、ウラジオストクとの国際連帯を追求する)
 - * チームスピリット91をなくす運動
 - * 明快な「私たちの軍縮提案」を作る
 - * 三・一非核独立太平洋デーの催し
 - * 中東危機に関するステイトメントの作成
 - * 横須賀NEPA訴訟を支援する
 - * 平和船団100隻体制を引き続きめざす。
- いままでもなく、この合意は参加者をしぼ(十ページ下段へ)

九〇年代の トマホーク

梅林宏道

中東危機に 具現

アメリカ海軍協会のデータによると十二隻の水上艦と隻数不明の潜水艦がトマホークを搭載して現在中東地域に展開している。

イラク・シフト

「砂漠の盾」と呼ばれる今回のアメリカの中東作戦においてトマホークを使用するのではないかと言う観測が強まっている。情報によれば、サン・ハチントと言うイージス巡洋艦は、通常は二二発のミサイルのうち、二六発しかトマホークを積まないにも拘らず、今回中東に派遣されるにあたって全部をトマホークに置き換えたと言われる。全艦トマホークしか装備していない軍艦が登場したのは

歴史上初めてのことである。このような軍艦が中東作戦に参加したならば、トマホークを使う以外にやる事が無い。その他のトマホーク艦に関しても、トマホークの搭載数を増やしたという情報がある。

言うなれば、ミサイルのイラク・シフトが敷かれたのである。

ポスト冷戦時代の兵器

「今日、そして九〇年代に向かうトマホーク」と題する米海軍の公文書が入手できた。今年の六月、巡航ミサイル計画局が発行したものである。それによると米ソのデータが実現し軍縮への圧力の強まる九〇年代こそ、トマホークが真価を発揮する、と海軍は考えている。その根拠として次のようなことが述べられている。

①柔軟性 トマホークは一つの制御盤で対艦攻撃(通常弾頭)から核攻撃まで行なうことが出来る、極めて柔軟性に富む兵器システムである。これは、たとえば今回の中東危機のように、核攻撃の含みは残しつつ、通常弾頭精密兵器としてまず使用する意図を持った作戦に適合していることを意味している。

②安上がり トマホークは安上がりのシス

テムであり、軍事費削減の強い要求にも折り合える。最大の理由は、トマホーク用に特別の軍艦を建造する必要が無く、既存軍艦の比較的小規模の改良でトマホーク能力を付与できるからである。

③無制約 現在の軍縮交渉における制約から自由である。

横須賀を母港にするトマホーク艦が、歴史上初めて実戦でトマホークを使うことを阻止する道は、そもそも戦争を始めさせないこと以外にはないであろう。

インディペンデンス母港化 自衛隊の海外派兵 反対を決議

第八回非核独立太平洋会議

去る十一月一日から七日まで、アオテアロア(ニュージーランド)のワイウクとパクレングを会場に第六回非核独立太平洋会議が開かれた。二十八ヶ国から一五〇名の代表が出席した同会議の決議の中には、「自衛隊の海外派兵に反対する決議」と「空母インディペンデンスの横須賀母港化に反対する決議」が含まれている。(次号で詳報)

シエアリングの要求ですね。これは七六年、ちよど三木内閣の成立直後から、日米防衛協力委員会という新しい枠組みの中の討論という形になる。ここで安保協力派と国内軍縮派とがかなり熾烈にせめぎあった。公開された論争はないわけですが、そういう潮流を観察することができると思っています。結局ガイド・ラインに至った、その後の第三期の安保条約、日米防衛協力、そしてその下での自衛隊という性格づけは、国内軍縮派の主導権によってではなしに、日米安保の論理によって決定されて、以後八〇年代の軍縮に入っていく。ですから、第一次デタントを契機とした軍縮への試みは挫折したととらえるべきであろうと思うのですが、しかし、第一次デタントを契機とした軍縮の試みがあったというところを、私たちは今注目をもってもう一度見てみる必要があると思います。

そこではわずかであったかもしれないが、保守・体制も含めた新しい国際情勢に対する取り組みがあった。しかしそれが結果として逆向きに利用されてしまった。ご承知のように「防衛計画の大綱」は、軍縮への契機ではなく軍拡への口実として八〇年代から今日に至るまで使われてきました。「防衛計画の大綱」を軍縮の文書として読むのは間違っていると言われればそれまでだけれども、作られた

契機を追っていけば、明らかにこれは軍縮のためと読むことができる。そういうものがあつたということは、これからの情勢を見、その中で我々ができることを考える場合に大切なことではないかと思うわけです。

そういうふうに冷戦と自衛隊、冷戦の中で日米安保協力がどのように変り、その下で自衛隊がどう位置づけられてきたか、それをめぐる政策的な論争、決定プロセスにおけるせめぎあいも見ておく必要があるということも強調しておきたいと思えます。

「敵がいらない」時代 軍縮はアジア太平洋 でも進む

デタント後の自衛隊、今日のデタント期の自衛隊はどう動くのでしょうか。アジア太平洋におけるデタント期の情勢とそれに対する自衛隊の対応にすこし触れておきたいと思えます。

何よりの特徴は、アジア太平洋において、エネミーレス、つまり敵がいらない状況が出来るようになることです。これはもう何よりも雄弁な事実が迫力をもって迫ってくるだろうと思えます。政策文書に何と書いてあり、予

算要求書に何と書いてあったとしても、米国防長官が何と言ったとしても、現実には敵がいなければ軍隊というものはもう用事が無いというような状況が、アジア太平洋においてもできてくる。ヨーロッパではすでにできています。制度としてのNATO(北大西洋条約機構)はまだある。しかし、WTO(ワルシャワ条約機構)がないNATOというのは一体なんだろうか。NATOをNATOたらしめてきた前方展開と柔軟対応戦略はなくなつてしまった。NATOはもう「張り子の虎」ではないのではないかと。同じような状況がアジア太平洋にも生まれつつあります。ソビエトの一方的な軍縮、アメリカの自然発生的な軍縮によって、軍縮条約なき軍縮がかなり進行している。ヨーロッパのようなきちんとした枠組みをもった軍縮ではないが、まさにアジアの粗放さを反映したような軍縮条約なき軍縮が、すでに我々の周辺に展開されているのではないのでしょうか。

●次号へつづく
テープ起し●水野希代子 見出し●編集部



反核ホット ライン

31

だより

入港情報

九〇・一〇・一六―一・一五
P級II(原子力潜水艦パーミット級)
S級II(原子力潜水艦スタージョン級)
L級II(原子力潜水艦ロサンゼルス級)

- (二〇・二二) アスプロ(S級) 午後一時五〇分・横須賀に入港。
- (二〇・二六) シカゴ(L級) 午前七時四〇分・横須賀に入港。沖どまりV。四〇分後に出港。
- オリンピア(L級) 午後三時・横須賀に入港。沖どまりV。四〇分後に出港。
- (二〇・二九) アスプロ(S級) 午前一時一〇分・横須賀を出港。
- (二一・二三) オリンピア(L級) 午前

- (二一・一四) オリンピア(L級) 午前九時四〇分・横須賀に入港。沖どまりV。一〇時一〇分横須賀を出港。
- *一九九〇年一〇月一五日現在で各港への原子力艦の入港回数
- 横須賀 三〇回(うち原潜三〇回)
- 佐世保 一回(うち原潜〇回)
- ホワイトビーチ 九回(うち原潜九回)
- 計 四〇回(うち原潜三九回)

海の下は軍縮進まず?

横須賀に原潜ラッシュ

一月一四日のオリンピア(ロサンゼルス級)の横須賀入港により、今年一月からの入港回数は、三〇回となり、一九六六年の初入港以来、過去最高を記録した一九八六年の三回に迫る勢いである。この状況を、地元的神奈川新聞では以下のように分析している。

(一月一四日付記事要約)

米原潜の入港は、六六年の「スヌーク」が初めて。ベトナム戦争終結直前の七二年に初めて二〇回に達したが、七四年から八年間は

一〇回未満で推移したが、八二年からは急激に増えている。ここ数年は、二五〜三〇回の高頻度で推移している。

また、今年入港した原潜のクラス別種類を見ると、ロサンゼルス級一六回、スタージョン級九回、パーミット級五回となっている。巡航ミサイル・トマホークの配備対象艦(ロス級、スタージョン級)の数は、これまでの最高である。このことから、米潜水艦の近代化が進んでいるのが分かる。

もう一つの特徴は、「沖どまり」と呼ばれる横須賀港の提供水域内への一時的な入港の増加。入港後数十分で出港するケースがほとんどで、在日米海軍報道部では「人員や物資の補給」と説明するが、その前後に数日入港していることもあり、その目的などナゾのぶぶんが多い。

横須賀の原潜の出入港を見る限り、世界的なデタントが進む中でも、相変わらず「海」の軍縮は進んでいないことが分かる。

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗号番号 1071

ク ロ ハ イ レ ナ イ

11月5日「神奈川新聞」

イ号横須賀母港化反対で

全国署名など展開へ

反トマ会議 活動方針

反核団体「トマホーク」の配備を許す「全国運動」(梅林宏道代表)の全国会議は、横須賀市内を会場に二日から三日間の日程で行われていたが、四日、米空母インディペンデンスの横須賀母港化反対など今後の活動方針を決定し、閉幕した。

会議は米ソ緊張緩和など熾激な世界情勢の変化の中で、どのように反核運動に取組んでいくかを考えるのが狙い。全国の反核市民グループなど二十八団体から代表約六十人が参加した。

四門は市内の浦郷警察署を視察した後、同市上町の横須賀教育会館で会議を開き、①米空母インディペンデンス横須賀母港化反対運

動の全国展開②独自の軍縮案作製③各市民グループのネットワークの拡大④中東地域の継続的監視などを当面の課題として決定した。

とりわけ注目されたイ号母港化反対運動に関連する事項では、全国的な署名運動実施のほか、母港化に伴

る在日米軍の経費変動調査、一人間の鎖などによる横須賀基地包囲運動、横須賀ほか三宅島、厚木など母港化で被害を受ける地域による米軍への共同アピールなども確認された。

参加者は国連平和協力法反対、中東への在日米軍軍事介入拒否などの声明を緊急決議、決議書その後、海軍部首相あてに提出することでも発表した。

在日米軍基地が緊急決議をあらわした。自衛隊の海外派兵に反対し、中東への米軍出動に抗議する。海軍部首相あてに送りました。

(四ページから)

るものではない。各地域やグループは出来ることを好きなようにやっていく。その経験やアイデアを交流し共有するネットワークを構築こそ反トマ運動の生命だ。

二十八団体、六〇人が参加した三日間の会議。列車の時間を気にしながら慌ただしく去って行く友人たちをおくりながら、もっと時間があつたらなあと思う。

最後に、はるばる遠いところから参加したみなさんに拍手。また会いましょう。そして、船越教会の木村牧師夫妻をはじめ、快適な環境を用意して下さった横須賀の皆さんに拍手。ありがとうございました。

◆田巻一彦

反核団体「トマホーク」の配備を許す「全国運動」(梅林宏道代表)の全国会議は、横須賀市内を会場に二日から三日間の日程で行われていたが、四日、米空母インディペンデンスの横須賀母港化反対など今後の活動方針を決定し、閉幕した。

会議は米ソ緊張緩和など熾激な世界情勢の変化の中で、どのように反核運動に取組んでいくかを考えるのが狙い。全国の反核市民グループなど二十八団体から代表約六十人が参加した。

四門は市内の浦郷警察署を視察した後、同市上町の横須賀教育会館で会議を開き、①米空母インディペンデンス横須賀母港化反対運



「トマ喰い虫」を
いっしょに
作りま
しょう!



編集 やってみようという人はいまなか? 平和運動や太平洋各地の動きなど、ホットな情報に触れてみたい人、連絡下さい。

イラスト やレイアウトに興味のある人大歓迎。あなたのセンスで「トマ喰い虫」をもっと素敵にドレスアップして下さい。

ワープロ 打ちなら任せなさい、この際覚えてみようかななんて考えている人。この際やってみませんか。

発送 も大事なそして楽しい仕事。毎月20日直後の日曜日トマ喰い虫社分室(東横線日吉駅から徒歩七分)に集まって、ワイワイとやっています。のぞいて見て下さい。来月は、

12月23日(日) 午後2時から
分室の電話番号は045(563)5101です

読者から



●若い人達、チャンとした人達、立派な人達に会える。嬉しくてなりません。発送のお手伝いですが、私は要所に座って邪魔をしていないみたい。それこそ、ワイワイガヤガヤ皆安心して、その辺に心を放り出して、いいようにお喋り、本当にありがたい集まりです。

私の現在の理想は、この人達と一緒に小さな船に乗って黒い船の回りを回って、意地悪く「帰れ、帰れ」と連呼百遍することです。

(内田政雄/無職/東京都)

●国連平和協力法粉碎のため日夜奮闘頂き感謝しております。自民党の口車に乗らないで日本の平和、世界の平和を守るため戦争のない社会づくりのためがんばります。その為には、平和協力法を粉碎しなくてはなりません。がんばりませう。

(宮崎 茂/県議会議員/佐賀県唐津市)

●どう考えても危険な「国連平和協力法」が衆議院に上程されているのに、マスコミが静

かすぎる。平和とか協力の文字に惑わされているのか、家族に話しかけても、遠距離通勤に疲れはてている。退職女教師の会千葉県本部の理事会で「抗議電報」を提案し、早速海部総理に東葛支部の名で「絶対反対」と打電した。「トマ喰い虫」No.60を見て、「国連平和協力法をつぶそう!」と力強い記事に満ちみちているのでホッとしました。マスコミはなぜ良心的報道をしないのか。若者や労組はなぜ立ち上がらないのか。

(芳野よし/団体役員/千葉県柏市)

●通信費は一年半前に切れてしまっているのに毎号送って下さってどうもありがとうございます。ここに二年分の四〇〇〇円を送りますので今までの不足分に充当してください。これからもよろしく願います。話は変わりますが、自衛隊の海外派兵の動きには私も大いなる危機感を感じております。絶対阻止に向けて個人として微力ながらもできることはと今策を弄しております。お互い頑張りま

しょう。

(美坂健一/市川市)

●(No.57のこの欄で)「トマ喰い虫」という言葉は生理的にいやだ、といったのは私です。言った手前、カンパー〇〇〇円。「自衛隊海外派兵を許せない」のは当然のこと。この時、日本はどうするか特集をしてほしい。

(T・S/東京都)

●平和憲法をなくすに、政府は海外派兵をしようとしていることに、大きな怒りと反対の声をあげなければなりません。第二次大戦の時、障害者は家族もろとも「役たらず者」として迫害されました。この際、平和に貢献するとは、何もしない「役たらず」なのではないでしょうか。

(太田修平/障害者連/東京都清瀬市)

●合掌。度々会報送って下さり恐縮です。充分に読めず日経ちます。北西太平洋ネットワークの声明はいい内容であったと思っております。世界情勢も充分理解できぬまま日が経ちます。少しは理解出来るきっかけをいただきました。お礼までに。合掌。

(S・T/住職/広島県)

会計報告

(90. 10. 16 ~ 11. 19)

「収入」

○前月からの繰越	△ 43,580
經常繰越	206,420
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	249,445
会費収入	200,000
内	
維持団体	26,000
維持個人	68,000
参加団体	12,000
参加個人	23,000
通信会員	71,000
カンパ収入	37,500
行動収入*	0
資料収入	6,320
反核ホットライン収入	5,625
アンケート調査収入	0

「支出」

●今月の支出	170,549
家賃	30,000
水道光熱費	10,510
電話代	16,839
郵送費	36,120
文具代	4,944
印刷費	34,726
行動費*	0
資料経費	1,860
反核ホットライン経費	32,520
アンケート調査経費	0
郵便振替等手数料	3,030
●次月への繰越	35,316
經常繰越	285,316
借入金繰越	△250,000

*行動収入・経費は原則としてプログラム毎の独立採算となっているため、これにあてはまらない一部の収支のみが經常会計に計上されます。

(二ページから)

と一息ついている間に、中東では戦争の危機がどんだん膨らんでいるのだ。

●イラクに対する軍事攻撃が、国連での国際合意に違反することをだれよりもよく知っているのはブッシュ大統領なのだろう。だから軍事攻撃を認める国連決議をあげさせようと根回しにやっきなのだ。血で血を洗う戦争が国連の「錦の御旗」のもとに行われるのでは、たまったものではない。

●自衛隊の海外派兵に反対した、それとまったく同じ理由で、米軍・多国籍軍の軍事行動を決して認めるわけにはいかない。これを支持することも、その軍事行動のために日本の基地が使われることに同意し、黙認すること

も、憲法違反であるところの際はつきり言うておきたい。聞いてますか、海部さん。
●米軍の撤退を求め、軍事行動に対して日本政府がどんな形であれ協力することに反対する声を、強く強くあげましょう！

ブッシュ大統領に手紙を!

「宛先」〒一〇七 東京都港区赤坂一―一〇

一五 アメリカ合衆国大使館気付



会計から



いつも会費、カンパのご送金ありがとうございます。今月はいくつかの団体から過去数年間にさかのぼって会費の送金をいただき、励まされる思いがいたしました。活動の充実のためにも、財政面でのご協力をひきつづきよろしく願います(会費、カンパ等いつでもご送金いただけます)。郵便振替用紙は毎月同封しています。(M)

「訂正」

第六〇号十二、十三ページの資料で、「北西太平洋ネットワーク」とあるのは「北大西洋ネットワーク」の誤りでした (編集部)

月刊トマ喰い虫第六十一号

一九九〇年十一月二十日発行(通巻六十一号)

*発行 トマホークの配備を許さず! 全国運動
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二―一五―九
バル青山五〇二 トマ喰い虫社

〇〇三(四九八)六〇九五
〇四五(五六三)五一〇一
FAX 〇四五(五六三)九九〇七
郵便振替 東京六一―三六一―四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会
*定価 一〇〇円(通信会員年間一〇〇〇円)